
7 パキスタン地震（南アジア地震）

2005年10月8日にパキスタン北部を中心にマグニチュード7.6の大地震が発生し、パキスタン北西辺境州（NWFP）、パキスタンが実効支配するカシミール地域（AJK）において70,000人を超える死者を出し、被害はインド、アフガニスタンにも及びました。

地震発生後、パキスタン政府からの要請により国連 OCHA による人道支援活動が展開され、被災者支援などの直後対応に必要な項目、それに必要な予算（総額約5億5千万ドル）などを盛り込んだフラッシュアピールが出されました。

そして、国連機関の機関横断的なスタンディングコミッティ（IASC）により、早期復旧のためのワーキンググループ（WGER）がジュネーブ、被災地イスラマバードにおいて UNDP 主導で設置され、その枠組みの中で早期復興のための国連合同ニーズ調査が実施され、IRP 事務局から村田復興専門官が参加しました。

また、JICA（独立行政法人 国際協力機構）による復旧・復興プロジェクト形成調査に、アジア防災センターから中村研究員が参加しました。

7-1 地震の概要

- 地震の規模：マグニチュード7.6（震源の深さ約26km：USGS）
- 震 源：北緯34.493度、東経73.629度（イスラマバード北北東約90km）
- 発 生 時 刻：2005年10月8日（土）午前8時50分（日本時間12時50分。この時間は、子供は学校の教室に、女性は主に住宅内、男性は野山で農作業（あるいは地域外に出稼ぎ）の時間帯。そのため 女性、子どもの死者多数）
- 死 者 数：73,331人、負傷者数：128,288人（12月5日パキスタン政府による）
- 主な被災地：北西辺境州（NWFP：5郡）、アザドカシミール（AJK：3郡）
- 地形的特徴：パキスタン北部の山間部はインディアン・プレートが北部のユーラシア・プレートに年間40mm（USGS）もぐり込むことによって生成されており、世界最高峰を含む山脈を形成している地震の多発地帯。1935年5月の Quetta 地震でも約6万人が死亡。今回の地震は活断層型地震。
- 被害の特徴：標高の高い山間部の町や村が大きな被害を受け、地滑りなどにより交通が途絶、多数の集落が孤立したため、状況把握・緊急支援に遅れが

でた。学校などの公共建築物の被害が多く、子供の犠牲者が多数を占める結果となりました。積雪を伴う厳しい冬を迎え、耐寒テントやシェルターなどの充実が緊急に求められました。

